

2020年3月期 第1四半期決算説明における質疑応答の概要

(2019年7月30日(火)、東京・ニチレイ本社)

【加工食品】

Q. 家庭用の冷凍食品市場と御社の状況を教えてください。

A. 市場全体は昨年下半年に比べると市場の伸びは戻ってきており、第1四半期は前期比+1%程度となった。当社においては、リニューアルした炒飯やピラフなどの米飯カテゴリが、前年第1四半期の高い伸びに続き前年同期比+11.5%となった。市場は堅調に推移しており、引き続き主力の米飯類やチキン加工品の販売拡大を進め、通期計画の5%増収を図る。

Q. 業務用調理品減収の要因と今後の見通しの確度を伺いたい。

A. 主力のチキン加工品は、中食向けを中心に堅調に推移した。一方でハンバーグ類が昨年伸びた商品が一巡したことや、春巻類が伸び悩んだことにより、全体ではマイナスとなったが、ほぼ計画線上で進捗している。中食向けに新しい商品の導入が決まっているものもあり、既存品の拡販や切り替えも進めているので、通期では4%増収を確保する見通しである。

Q. タイの関係会社の状況を教えてください。

A. 前上期まで低迷した鶏副産物の販売価格は回復しており、タイの業績は改善した。プロイラー価格は上昇傾向だが、鶏副産物の需要も高まっており、当社にとってはマイナスだけではないと考えている。為替については前年同期比でパーツ高が2%ほど進んでいるが、パーツの水準は高いので、これ以上の上昇は限られているのではないかと見ている。今後の相場は不透明だが、下期では原料仕入コストの上昇も織り込み済みであり、現状の上昇の範囲内であれば通期計画通りで見込んでいる。

【低温物流】

Q. 物流ネットワークと地域保管の価格戦略について、期初の計画から変更した部分はあるか。

A. 期初計画から大きな変更はなく、計画通り適正料金の収受を進めていく。

【水産】

Q. 減益の要因となったタコの状況を教えてください。

A. タコの相場下落が継続し、国内の販売価格はさらに下落した。その影響が出たことで第1四半期では営業赤字となったが、在庫の入替えも進んでいる。今後は、引き続き外食や中食向けの販売に注力し、通期計画は達成できると見込んでいる。

【その他】

Q. その他セグメントの減益要因を伺いたい。

A. 主にバイオサイエンス事業で、米国での買収関連費用や、新しい研究開発センターの稼働に伴う費用など、一時的な費用が発生したことによる。

以上

※当文書は当日の質疑応答内容をすべて記録したのではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。